

特色あるフロンティアスクールの取組事例

都道府県番号	15
都道府県名	新潟県

(□ □ □)

・学校名及び規模

柏崎市立田尻小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	3	3	2	21	26
児童数	77	95	91	91	92	86	3	535	

・実践研究の概要

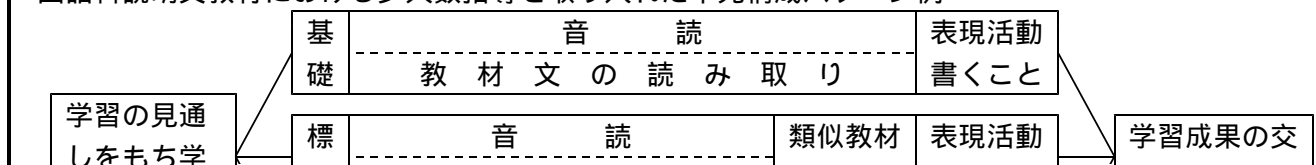
・主題(テーマ)
 学力の向上につながる習熟度別、課題別による少人数指導の在り方

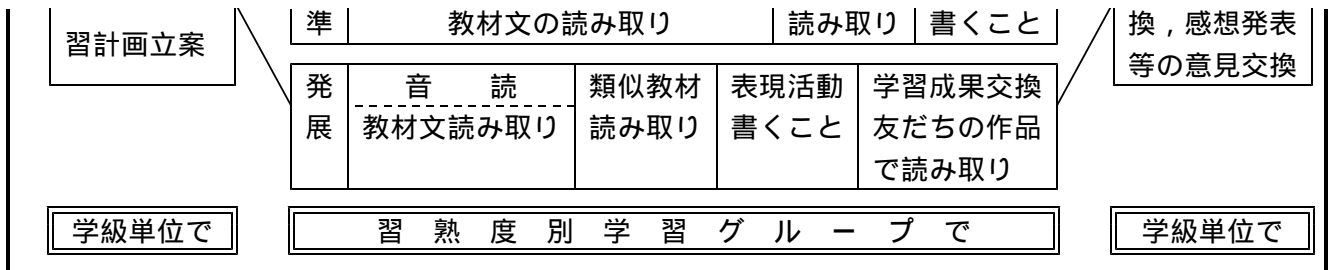
・テーマ設定の趣旨
 学習指導において、基礎・基本の定着にのみ留まるのではなく、学習の対象に深く関心を寄せたり、自ら学ぶ意欲をもち、既習の内容や思考力などの能力を駆使し、さらに深く考えよりよく問題を解決する「生きる力」を育成することに配慮して授業改善を目指す。
 そこで、3年生以上の国語と算数に焦点を絞り、効果的な少人数指導の実践を通して、どの子にも基礎・基本の確実な定着を図ること、どの子どもにも「わかる」「できる」喜びを体感できる学習指導を工夫し、自ら学ぶ意欲を育てること、習熟度別、課題別学習による個に応じたきめ細かな指導により、一人一人の個性を引き出し可能性を伸ばすことを基本的な考え方としておさえ、一人一人を大切にしたい授業の在り方を具体的に探っていくこととする。

・実践研究の内容について

- () 研究体制の工夫
- ア 全職員が「学習指導推進部」の国語部か算数部のいずれかに所属し、授業改善を進める。部内に「評価検討委員会」を設けて、自己評価や相互評価の在り方を探る。
 - イ 習熟度別編成による少人数指導等を進めていくために、各学年の職員のほかに級外職員や指導補助員(県費、市費)、保護者他による教科サポーターで指導体制を組む。
 - ウ ほかに、小中連携を担当する部、家庭や地域との連携担当部も設け、これらの部長による「フロンティア事業推進委員会」で事業全体の企画運営や調整を図っていく。
 - エ 中学校区としてこれまで連携してきた組織も、本事業の推進に生かしていく。
 - オ 教材開発に関しては、市教育センターを核として郡市内の学校から選出された委員によるプロジェクトチームと連携を図る。
- () 実践研究の内容
- ア 個に応じた指導方法及び学習形態の工夫
 学力検査や日常の学習状況の分析による学力実態を把握し、少人数指導を実施する重点領域を設定する。
 - ・ 民間「応用教育研究所員」の指導で「学力分析の仕方」を研修(中学校区の3校と共同研修)
 - ・ 国語科は「読むこと」算数科は「数と計算」を重点領域、内容に設定
 習熟度別、課題別による少人数編成を、習熟度だけでなく、子ども一人一人の学習の進め方、考え方の面も考慮して3学級を4クラスに再編し「基礎・基本コース」「標準コース」「発展コース」の基本パターンで進める。
 - ・ 基礎・基本コース：基礎的・基本的な内容に絞り込んで確実な定着を目指す1クラス
 - ・ 標準コース：基礎的・基本的な内容の習得後に発展的な内容を目指す2クラス
 - ・ 発展コース：基礎的・基本的な内容からより発展的な内容を積極的に進める1クラス
 単元のどの場面で習熟度別編成による少人数指導を導入していくことが、より効果的であるかを検証していく。
 - ・ 最初から最後まで習熟度別学習を進める単元
 - ・ 前半は通常の学級で学習を進め、後半から習熟度別学習を導入する単元
 - ・ 原則として通常の学級で学習を進め、次単位のまとめの場面など、部分的に習熟度別指導を進める単元

国語科説明文教材における少人数指導を取り入れた単元構成パターン例





子どもの興味や関心に基づいた課題の設定, 操作活動や教育機器活用など, 個に応じた教材支援や教材開発を実践研究する。

- ・ 実践した学習プリント類の蓄積
- ・ 郡市「指導資料作成プロジェクト」で開発された教材の実践活用による自校化

イ 指導の改善に有効な学習評価の工夫

子ども自身が学習過程を振り返り, できるようになったことを確認し, 新たな自分の目標や課題をもって, 意欲的に学習を進めるために自己評価活動を導入する。

- ・ 単元ごとの「学習ふりかえりカード」による自己評価
- ・ 学習プリント, 学習記録のファイリングによるポートフォリオ化

学習ふりかえりカード例		4 年 「小 数」					コース 名前	
時間	学習のめあて	学 習 を ふ り か え っ て						
1 / /	1 dlではかること のできない, はしたの 量のあらわし方が分か る	5	4	3	2	1	(感想)	
		A	B	C	D	E		
2 / /	カップやコップに入 っている水の量を小数 であらわす	5	4	3	2	1		
		A	B	C	D	E		

5 : よくわかる 1 : 全くわからない A : とても楽しい E : 全く楽しくない

子どもの学習状況を長い目でとらえ, 評価に関する情報を積み重ねたり, 結び付けたりして指導に生かしていく。

- ・ 子ども一人一人の学習カルテづくり
- ・ 評価情報のネットワーク化の推進 (パソコンによるデータ集積等)

ウ 他校や家庭, 地域との連携

中学校区の小中学校と連携し, 9ヶ年を見通した年間指導計画及び学習内容系統表を作成する。

- ・ 基礎的基本的な学力のとらえ
- ・ 小中の学習内容の関連性

中学校区で公開授業研修や合同研修を実施して, 指導内容や指導方法について検証し, 小学校と中学校における「指導のギャップ」を埋めていく。

- ・ 月1回程度実施 (中学校教諭とのTT指導も含む)
- ・ 学習規律や学習習慣の形成といった面での小中一貫指導の在り方検討

保護者や地域の人による授業参画を図る「教科サポーター」を取り入れ, 子ども一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を目指すとともに, 習熟度別編成による少人数指導についての理解を図る。

- ・ 教科サポーターによる学習支援体制の整備
- ・ 授業参画のための諸条件の検討と共通理解
- ・ 事業の有効性をサポート実施時のアンケートからの検証

() 成果と課題

ア 成果

習熟度別編成による少人数指導は, 習熟度の低いコースの子どもにとって効果的である。

子どもたちの習熟度別学習に対する満足度や期待度は高く, 学習意欲の向上と自己評価能力の育成が図られている。

小中連携によって, 教師自身が9か年の学習内容を把握でき, 小学校の学習内容と中学校の学習内容との関連を考えながら指導することにつながった。

イ 課題

習熟度別による少人数指導のコース編成の視点や少人数指導の意図や目的を明確にし、単元構想と学習展開の面から指導計画を見直し改善する。
 保護者や地域人材による教科サポーターの充実など、少人数指導をより充実するための指導推進体制を整備していく。
 子ども一人一人の実態や理解のスタイルに応じた適切な教材開発と支援の在り方をさらに探る。
 学習ふりかえりカードの内容も含め、ポイントをとらえ、子どもの変容を見取ることのできる「無理のない評価活動」の在り方を実践を通して探る。

() 成果の普及方策

- ア 市内全職員で構成する「教員会」の「国語教育研究会」及び「算数・数学教育研究会」において報告し、普及を図る。
- イ 今年度末にホームページを開設し、ホームページ上で研究内容や成果、課題等を公開し批正を仰ぐ。

() その他

柏崎市と隣接する刈羽郡で構成する地域教育委員会連絡協議会では、「発展的な学習のための指導資料作成」事業を進め、田尻小学校ではそれらを活用するとともに、自校化にも取り組んでいる。

発展的な学習の教材作成上の配慮事項

- ・ 子どもも教師も授業で活用する教材（使いやすさ）
- ・ 算数、数学のイメージを変えるような教材（楽しさ）
- ・ 柏崎刈羽のオリジナルな教材（地域らしさ）

作成教材の対象

- ・ 本年度、小学校は「数と計算」領域、中学校は「数と式」領域
- ・ 次年度以降、漸次ほかの領域に取り組む

作成する上での視点

- ・ 間違いやすい内容を強調する教材
- ・ 内容を複合的に含む教材
- ・ 上学年の内容の教材
- ・ 今回の指導要領で削除された内容の教材
- ・ 算数、数学の良さやロマンにふれる教材
- ・ 子どもが喜び、主体的に学ぶ教材
- ・ 学習内容を整理、統合する教材

教材を活用する学習場面

- ・ 単元または小単元の学習内容を学び終えた子どもの個別学習の場面
- ・ 習熟度別学習の発展的な学習場面（グループ学習）
- ・ 既習の学習内容を整理したり統合したりして、その後の学習に生かす一斉指導の学習場面
- ・ 削除された内容であるが、是非学習してほしいと考える内容の一斉指導の学習場面
- ・ 中学校選択学習の課題や個別学習として扱う学習場面

教材のタイプ分け

- ・ Aタイプ：子どもが一人学習できるようなプリント形式（個別学習向け）
- ・ Bタイプ：子どもが授業を楽しめる課題とその学習過程のガイド（一斉学習向け）

【Aタイプ事例】

6年「約数・倍数」

カレンダーの秘密を見付けよう

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

点線で囲んだ9つの数字について考えよう。

- (1) たての3つの数の和は、その真ん中の何倍？
- (2) 横の3つの数の和は、その真ん中の何倍？
- (3) 斜めの3つの数の和は、その真ん中の何倍？
- (4) 9つの数の和は、その真ん中の数と比べるとどうなっているの？
- (5) ほかの場合を考えて調べてみましょう。同じことがいえますか？
- (6) ほかに自分で見付けたきまりは？

【Bタイプ事例】

4年「わり算」

わり算のあまりがみんな「4」になるよ

課題
 1～9までの数字カードから、4枚えらんでわり算の式を作り、計算してみましょう。

例

7	1	5	÷	9	
7	5	1	÷	9	
5	1	7	÷	9	あれれ？みんなあまりが「4」になるよ！ どうしてかな？
5	7	1	÷	9	
1	5	7	÷	9	
1	7	5	÷	9	

GUIDE
 課題を提示し、割られる数の3桁の数字が、
 全て「1 5 7」の組合せでできていると
 させる。わる数が全て9であることを見付け
 （式を見て気付いたことはありませんか？）
 実際に計算させてみて、あまりが「4」に
 なることを確かめる。
 （計算してみましょう）
 あまりが「4」になる理由を考える。
 （どうしていつもあまりが「4」になるの
 でしょう？）

